

## 実践報告3

## プロセスライティングによる評価

愛知県立尾北高等学校 教諭 栗木 裕子

愛知県立岩倉総合高等学校 教諭 藤本 貴之

愛知県立木曽川高等学校 教諭 山下 明子

愛知県立吉良高等学校 教諭 宮川 孟

## 1 はじめに

授業改善や学習改善をねらいとした観点別評価が行われているが、ベネッセの調査にあるように「観点別評価は、教師の指導改善や生徒の学習改善につながるものとして機能していますか」という問いに対して63%が「機能していない」と答えている（資料1）。このことから、観点別評価をどのように実践すれば効果的に授業者の指導と生徒の学習改善が図れるのかについて研究する必要があると考えた。

文部科学省が高校3年生を対象に行った英語力調査では、「書くこと」において、90%以上の生徒が初級レベルであるA1または、A2に該当することが分かっており、「書くこと」について高校3年生の90%以上が英検3級または、準2級程度であることが言える（資料2）。このことから、日頃の授業の中で、効果的なライティング活動を導入していく必要があると考える。

これまでのライティング指導では、主に授業者の役割は、生徒が書いた作品の語彙や文法チェックが多くを占めてきた。しかしながら、語彙や文法の指導が中心となる活動では、論理的に文章を表現する力を育成することは難しい。高等学校学習指導要領では、「論理・表現Ⅰ」の「書くこと」について以下のように記されている。

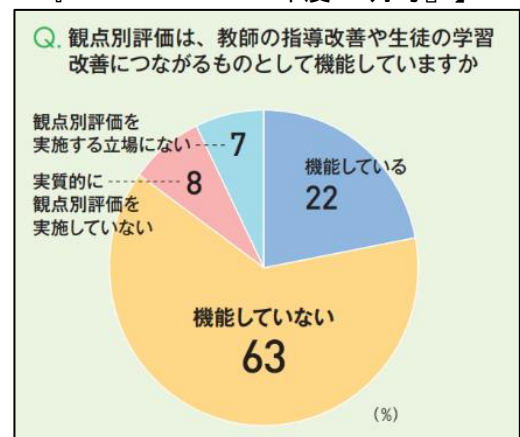
日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

つまり、生徒にトピックを提示して書くように伝えるだけではなく、「段階的な手順を踏みながら」書くよう指導する必要がある。

プロセスライティングは、与えられたテーマについての予備知識を授業の中で膨らませ、いくつか

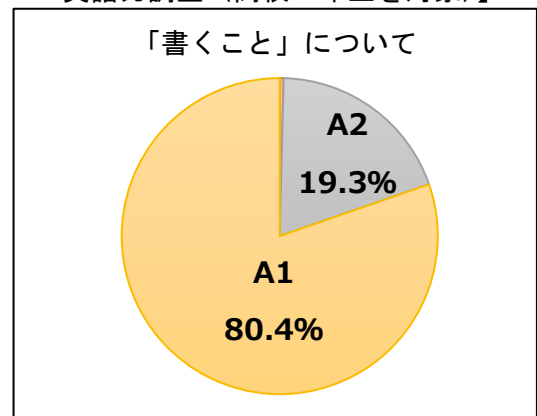
## 【資料1 ベネッセ(2023)】

『VIEW next 2022年度2月号』】



## 【資料2 文部科学省(2018)】

英語力調査（高校3年生を対象）】



の過程を経て自分の意見を書く活動である(資料3)。この活動では、1回で文章を書いて終わるのではなく、このような過程を経て1つの作品を完成させる。文章を完成させる過程で、他の生徒や授業者の助言を取り入れることが可能であり、質の高い文章が書けると考えられている(Peregoy & Boyle, 2016, p.288)。

本実践では、段階的な手順を踏みながら効果的なライティング指導ができるプロセスライティングを複数の学校で導入し、どのような変化があったか検証する。

### 【資料3 プロセスライティングの流れ (Peregoy & Boyle, 2016, p.288に基づく)】

- ①First Draft : 考えを膨らませる
- ②First Writing : 考えを文章にする
- ③Peer Editing : 生徒同士で文章を読み合い  
アドバイスをする
- ④Final Writing(Second Writing) : 生徒や  
授業者にアドバイスをもらって書き直す

## 2 岩倉総合高校における実践と考察

### (1) 教材

ア 教科書 : *Earthrise Logical Expression I Standard* (数研出版)

イ 単元 : “Are you eco-friendly?”

### (2) 単元の目標

マイバッグをより多くの人が持っていくようになるかどうかについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を理由や具体例などを工夫しながら、順序立てて詳しく書いて説明することができる。

### (3) 関係する領域別目標 (学年のCAN-DO)

話すこと [発表]	・自分のことについて、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、1分30秒程度発表することができる。
話すこと [やり取り]	・聞いたり読んだりしたことについて、あいづちをしながら簡単な意見交換をすることができる。 ・与えられた話題について自分の意見を理由や具体例とともに、即興で2分程度話し合うことができる。
書くこと	・自分の考えを、簡単な英語を用いながら、即興で50語程度の文章を書くことができる。 ・自分や友人と話し合いをしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを理由や具体例とともに、150語程度の文章を書くことができる。

### (4) 単元の評価規準 (五つの領域ごとの評価規準の設定)

評価の 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
書くこと	[知識] 自分の意見や主張を伝えるために必要な論理の構成や展開及び表現等を理解している。	読み手によく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、理由や具体例などを工	読み手によく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を理由や具体例とともに

	<p>[技能]</p> <p>マイバッグを持っていくことについて、自分の意見や主張を、理由や具体例などを用いながら、順序立てて説明する技能を身に付けている。</p>	<p>夫しながら、順序立てて詳しく書いて伝えている。</p>	<p>順序立てて詳しく書いて伝えようとしている。</p>
--	--	--------------------------------	------------------------------

### (5) 単元の指導計画

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時間	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	内容のまとめ					生徒の活動状況を見届ける 観点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1	<p>■単元の目標を理解し、課題に対する理解を深める。</p> <p>①環境についてどのくらい意識があるか質問に答え、ペアで意見交換する。</p> <p>②必要に応じて、文法事項を確認する。</p> <p>③モデル文を読み、Mind Map をする。</p> <p>④モデル文について図式化したメモを参考にペアに伝える。</p>		○			○	<p>【知】使われている語句・表現を理解しているか。</p> <p>【思】モデル文に合わせて図式化できているか。</p> <p>【態】ペアに積極的に話そうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
2	<p>■自分の意見や主張の概要を書き出す。</p> <p>①自分の考えをワークシートや教科書の表現を参考にしながら、英文を書き出していく。</p> <p>②モデル文を参考に理由や具体例の書き方を確認する。</p> <p>③ライティングのルーブリックを確認する。</p> <p>④①～③を参考に、First Writing に取り組む。</p> <p>※Writing の提出はロイロノート・スクール (株式会社 LoiLo、以下「ロイロノート」と表記) を使用して提出する)</p>		○			○	<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
3	<p>■ペアで読み合い、アドバイスなどを利用しながら Second Writing を書き出す。</p> <p>①スピーチ発表のルーブリックを確認する。</p> <p>②自分の書いた First Writing を参考にマイバッグを持っていくべきかどうかについてグループで発表をする。</p> <p>③②のグループで First Writing をロイロ</p>	○			○		<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>

	<p>ノート上で共有し、気になる文に線を引き、コメントやアドバイスを話し合いながら行う。</p> <p>④②、③をグループメンバーで繰り返し行う。</p> <p>⑤過去の作品によく見られた文法間違い (Common Errors) を確認する。</p> <p>⑥①から⑤で得た情報をもとに <b>Second Writing</b> を書きだす(<b>Writing</b> の提出はロイロノートを使用して提出する)。</p>	○	○		○			
4	<p>■ペアで読み合い、発表への準備を行う。</p> <p>①自分の書いた <b>First Writing</b> を参考にマイバッグを持っていくべきかどうかについてグループで発表をする。</p> <p>②①のグループで <b>Second Writing</b> をロイロノート上で共有し、気になる文に線を引き、コメントやアドバイスを話し合いながら行う。</p> <p>③①、②をグループメンバーで繰り返し行う。</p> <p>④発表用スライドの作成方法を確認する。 (発表用スライドはパワーポイントで作成する。語句や文字は載せてもよいが文で載せないことを確認する)</p>	○			○			<p>【態】ペアに積極的に話そうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
5	<p>■スピーチ発表と <b>Second Writing</b> 提出</p> <p>ランダムで呼ばれた番号の生徒からスライドを使用しながら発表を行う。</p>	○			○			<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
後日	<p><b>Second Writing</b>、振り返りシートの提出及びペーパーテスト</p>						○	

#### (6) パフォーマンステスト

##### ア 領域

##### 書くこと

##### イ 内容

より多くの人がマイバッグを持っていくようになるかどうかについて、自分の考えを理由とともに書いて伝える。

### ウ 「思考・判断・表現」についての三つの条件

- 条件1：より多くの人がマイバッグを持っていくようになるかどうかについて、自分の考えが述べられている。
- 条件2：より多くの人がマイバッグを持っていくようになるかどうかについて、2つ以上の理由と具体例が順序立てて述べられている。
- 条件3：動名詞の文法がほぼ間違いがなく3回使われている。

### エ 評価基準（ワークシートのルーブリック参照）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a		三つの条件を満たした上で、 <b>First Writing</b> からの改善が見られる。	同じ表現を繰り返し使用することなく、モデル文にはない表現を多用しており、140 語以上書いてあり、 <b>First Writing</b> からの改善が3つ適切に書かれている。
b		三つの条件を満たしている。	モデル文を参考に 140 語以上書いてある。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

「言語面の正確さは、言語使用を繰り返す中で徐々に高まっていく」(国立教育政策研究所、2021)ことを踏まえ、本校では、「話すこと〔発表〕」について評価する際に「知識・技能」を評価に入っていない。言語面の正確さよりも内容面で判断することとしている。ただし、単元の目標となる文法について間違いがある場合には、伝えることに支障があると判断し、「思考・判断・表現」の評価で考慮するものとする。また、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価には、「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステストで行う評価があり（国立教育政策研究所、2021）、**First Writing** から **Second Writing** までにどれだけ工夫をし、「思考・判断・表現」で求められている基準を満たそうと努力したことを測るために「同じ表現を繰り返し使用することなく」や「140 語以上」「**First Writing** からの改善が3つ」書かれているかを評価することとしている。上で示した基準をもとに「content」「length」に分けてルーブリックを作成し、生徒と授業者で共有している。実際に評価をする際には、信頼性の向上を図るため、改めて授業者間で相談してルーブリックをより明確なものにしていく。「書くこと」については、年度当初に担当教員で数人評価をしたものを持ち寄り、話し合った後に全ての評価を行う。

### (7) 振り返りシート

振り返りシートを One Page Portfolio Assessment（堀、2019 p. 255）の考えに基づいて作成した（次ページ資料4）。ロイロノートを活用した振り返りシートであり、「書くこと」について各学期に振り返りができるようにした。

多くの生徒にとって振り返り活動は習慣化しておらず、目標を立てることが困難な生徒もいる。そこで、目標についてはライティング課題で使うルーブリックを提示して、その評価項目を見ながら生徒が目標を設定するよう工夫した。それ以外の項目についてはライティング活動が終了した時点で書く機会を設けている。1枚のシートに3学期分の振り返りが書けるので、生徒は1年間を通じた振り返りが可能になり、1年間で何ができるようになったか、また、何が足りないのかを考えるきっかけとすることができると考えた。

## 【資料4 振り返りシート】

目標	①どのような取り組みをしましたか。 授業内	②どのようなことができるようになりましたか。
1 学期 振り返りシート	授業外	
	④今後どのような取り組みをしますか。 授業内	③どのようなことができます、できるようになりたいと思いましたか。
成績		

目標	①どのような取り組みをしましたか。 授業内	②どのようなことができるようになりましたか。
2 学期 振り返りシート	授業外	
	④今後どのような取り組みをしますか。 授業内	③どのようなことができます、できるようになりたいと思いましたか。
成績		

目標	①どのような取り組みをしましたか。 授業内	②どのようなことができるようになりましたか。
3 学期 振り返りシート	授業外	
	④今後どのような取り組みをしますか。 授業内	③どのようなことができます、できるようになりたいと思いましたか。
成績		

## (8) 実践と考察

本実践では2人の生徒A・Bを抽出した。生徒Aは、やや英語学習に苦手意識を抱えており、周りの生徒と話すことが苦手である。また、生徒Bは、英語学習が得意とは言えないが、周りの生徒の協力を得ながら活動している。ここでは、右のリストにあるワークシートの生徒の記述を用いて、生徒と作品にどのような変化があったのかを明らかにしていく。また、対象のクラス生徒（37人）が回答したアンケート集計と記述回答をまとめた。

- ① 生徒が1学期に書いたライティング作品
- ② 生徒が1学期終了時に作成した振り返りシート
- ③ 生徒が2学期に書いた **First Writing** に対して周りの生徒から得た助言
- ④ 生徒が2学期に書いた **Second Writing** について生徒が書いた改善したポイント
- ⑤ 生徒が2学期に書いた **Second Writing** 作品

## ア 生徒Aによる振り返りとライティングの様子

生徒Aが1学期に書いたライティング作品と1学期終了時に作成した振り返りシートを例示する（資料5、資料6）。振り返りの中で、「話の展開の仕方とか話の終わり方がわかんなくなる」とあるように、生徒Aのライティング作品には、接続詞が使われている文がほとんどなく、話の流れを文章で伝えることに困難さを抱えていることが分かる。

## 【資料5 生徒Aが1学期に書いたライティング作品】

I would like to write about the place I have visited many times. I have been to Kounomiya Shrine many times. It takes about 30 minutes to get there. I visited there with my family or my friends. We can enjoy Hatsumode or festival. We play Omikuj, Osaisen and eat mitarashi dango. It is very delicious. We can buy the it at yatai. It is many kinds. For example, Takoyaki, yakisoba, and karaage. I was fun. Many people visit the shrine on new year. So we should go there on 4 days later. I have been planning to go there again.

## 【資料6 生徒Aが1学期終了時に作成した振り返りシートの抜粋】

どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。

- お手本がなくなったら、話の展開の仕方とか話の終わり方がわかんなくなると思うから、お手本無しでも英文を書けるようになりたい。

生徒Aが2学期に書いた **First Writing** に対して周りの生徒から得た助言を例示する（次ページ資料7）。ここで得られた助言を **Second Writing** に生かしながら書こうとしている（次ページ資料8）。

「具体的にと言われ、さらにエコバッグを持っていく理由を書き足した」や「例文以外のアドバイスをもらい、**First** や **Next** の他に **Last** という表現を入れてみました」と書かれているところから分かる。

【資料7 生徒Aが2学期に書いた First Writing に対して他の生徒から得た助言】

- もっと具体的に言ったほうがよいと思った。
- 理由の時に例文以外の表現が使えるともっとよいと思った。

【資料8 生徒Aが2学期に書いた Second Writing について改善したポイント】

- 先生がおすすめていた書き方を使いました。
- 具体的にとわれ、さらにエコバッグを持っていく理由を書き足した。
- 例文以外の表現も使うとよいとアドバイスをもらい、First や Next の他に Last という表現を入れてみました。

生徒Aが2学期に書いた Second Writing 作品を例示する（資料9）。1学期の振り返りにもあった「話の展開」について、First、Next、Last などのディスコースマーカ―を用いながら表現しようとしていることが分かる。

【資料9 生徒Aが2学期に書いた Second Writing 作品】

I think more and more people take their own bags when they go shopping. I have three reasons. First, using plastic bags causes pollution. For example, whales and turtles eat plastic bags. They are die. Plastic is killing a lot of marine life. So using plastic bags is destroy the marine ecosystem. Next, buying plastic bags is just waste of money. For example, buying plastic bags many times costs a lot of money. But you only have to buy one eco bags. If you keep buying plastic bags for years, you will need a lot of money. Last, plastic bags is very break. For example, plastic bags break when having heavy objects. However, eco-bags not break when having heavy object. Because of these reasons, I do not think more people need to buy their own plastic bags.

【資料10 生徒Aが2学期終了時に作成した振り返りシートの抜粋】

どのようなことができるようになりましたか。

- あまり例文を見ずに文章を組み立てることが出来た。セカンドライティングではしっかりと 改善点を直すことができるようになった。

生徒Aが2学期終了時に作成した振り返りシートの抜粋を例示する（資料10）。「改善点を直すことができる」とあり、友人から受けた助言を参考に文章を改善したことが分かる。

イ 生徒Bによる振り返りとライティングの様子

生徒Bが1学期に書いたライティング作品を例示する（資料11）。「よく行くお気に入りの場所」の説明をしており、お気に入りのキャラクターなどの説明を交えながら説明している。しかしながら、場所のことよりもキャラクターについての紹介文になってしまい、具体例が挙げられていない。

【資料11 生徒Bが1学期に書いたライティング作品】

I would like to talk about the place I have visited many times. I have been to Tokyo Disney Land many times. I visited there with my family because my family loves Disney. Disney has many attractions and shops. It's all very cute and fun. Especially the characters are cute, so my favorite character is Marie. I had fun wearing matching headband with my brother. Disney has a lot of great food. I ate the little Green Man and I ate Mickey ice candy. It was very delicious. It was hot that day, so the ice candy which was delicious. I have been planning to go there again. I want to take lots of pictures. I'm looking forward to it.

【資料12 生徒Bが2学期に書いた First Writing に対して他の生徒から得た助言】

- 1つ目の理由を書く前に First をつけると分かりやすいなと思いました。
- あと1つ！ 動名詞！

【資料13 生徒Bが2学期に書いた Second Writing について改善したポイント】

- 1つ目の理由を First にするとよいとアドバイスをもらい First にした。
- 動名詞を増やすとよいとアドバイスをもらい、増やした。
- Bag しか書いてなく、何のカバンか分からなかったから最初に eco をつけてエコバッグというのを分かるようにした。

生徒Bは周りの生徒のコメントを活用しながら、Second Writing に反映させている様子が見て取れる（資料12、資料13）。

また、生徒Bが2学期に書いたライティング作品にあるように、2つの側面から具体例を用いながらエコバッグを持ち運ぶことについて述べることができ（資料14）、2学期終了時に行った振り返りシートの「前回の作文より内容を詳しく書くことができましたようになります」という言葉と一致していることが分かる（資料15）。

【資料14 生徒Bが2学期に書いた Second Writing 作品】

I don't think more and more people take their own bags when they go shopping because the number of people who use eco bags has not increased for many years. First, eco bags are expensive. For example, plastic bags are cheaper. You can buy plastic bag for a few yen but echo bags costs about ¥1000. The second reason is forgetting to bring an eco-bag. In fact, there are many things that I have forgotten. For example, the bag is not always in the eco-bags. I feel that the drawbacks of eco-bags that they do not fit unless the eco-bag is large. Because of these reasons, I don't think more people need to carry their own shopping bags.

【資料15 生徒Bが2学期終了時に作成した振り返りシートの抜粋】

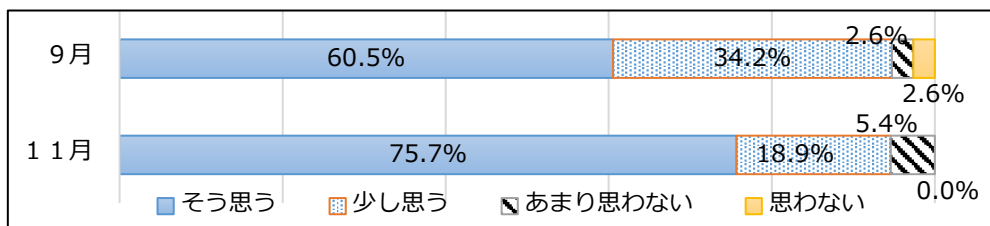
どのようなことができるようになりましたか

- 前回の作文より内容を詳しく書くことができましたようになります。あと、翻訳機も文で調べるのではなく、単語で調べたりして少しだけ文を作れるようになりました。

ウ 生徒によるアンケートの結果

対象クラスの生徒全体に行ったアンケート結果から、ワークシートの例文を生かしながらライティング作品に取り組むことができ、9月よりも11月の方がより生かすことができたという生徒は感じている（資料16）。

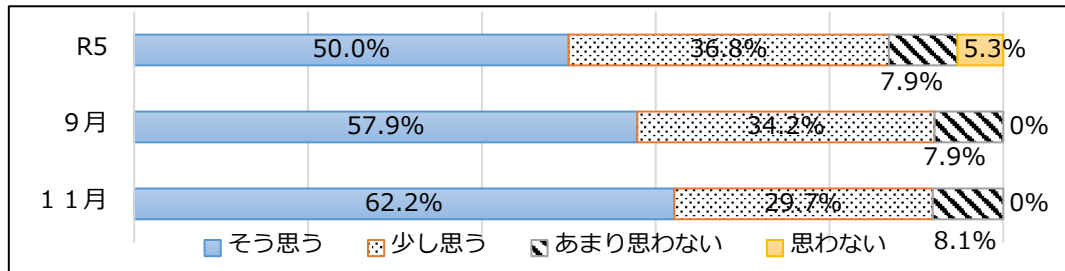
【資料16 ワークシートの例文をライティング作品に生かすことができたか】



「友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的でしたか」に対して得た回答は、昨年度（令和5年度）と比べると、多くの生徒が肯定的な回答をし、今年度でも9月よりも11月の方がより肯定的な回答が得られている（次ページ資料17）。



【資料17 友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的でしたか】



生徒による英作文を交換して読む活動についての感想を、「友達の文が参考になる」「友達のアドバイスを得ることができる」「活動が楽しい」「相手に伝わるか確認できる」と項目分けをしたものを整理した（資料18）。

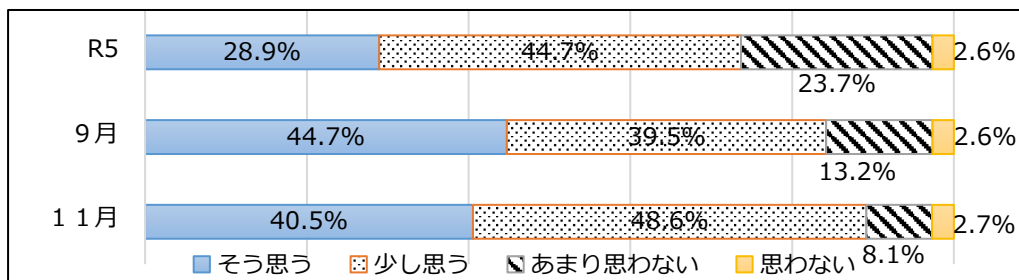
「振り返りシートは効果的でしたか」についての結果を示す（資料19）。9月と11月では、「そう思う」の割合は減少しているものの、肯定的な回答の割合はやや増加している。

「振り返りを振り返る活動は効果的でしたか」についての結果を示す（資料20）。2学期から始めた活動であり、比較することはできないが、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

【資料18 生徒による英作文を交換して読む活動についての感想】

- ① 友達の文が参考になる
  - 友達のライティングの作品を見て自分も使った表現を発見することができたから。
- ② 友達のアドバイスを得ることができる
  - 友達と交換することでアドバイスをくれたりするのでそれによって改善することができたから。
- ③ 活動が楽しい
  - 友達と交流できて楽しかったから。
- ④ 相手に伝わるか確認できる
  - ちゃんと相手に伝わるような単語や表現を使えているのかを知ることができたから。

【資料19 振り返りシートは効果的でしたか】



【資料20 振り返りを振り返る活動は効果的でしたか】



「生徒による振り返りを振り返ることについての感想」について項目立てを行い、生徒のコメントとともにまとめた（次ページ資料21）。振り返りをすることで「次回に生かせる」「成長を実感できる」「学びの再確認ができる」「新たな発見ができる」に分類した。

### 【資料21 生徒による振り返りを振り返ることについての感想】

- ① 次回に生かせる
  - 前の単元の振り返りを今見ることで、自分がその時できていなかったものを今回の作文に生かして、苦手を克服することができたから。
- ② 成長を実感できる
  - 自分の振り返りを見てどう変わったか、何が新たに見つかったかなどを知ることができるので効果的だったから。
- ③ 学びの再確認ができる
  - 振り返りを振り返ることで、できたところとできなかったところが分かったり、どんなふうになっていたのか改めて知ったりできたから。
- ④ 新たな発見ができる
  - 前回のワークシートからの成長が分かったり、逆にまだまだできていないところを発見したり、よい機会になったから。

#### エ 例文を効果的に見せたり、生徒が書いた作品を生徒同士読み合ったりする活動について

アンケート結果より、例文を提示することで生徒の作品づくりに生かされたり（資料16）、友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的であったと答えている生徒が9割程度いることが分かる（資料17）。生徒Aは資料7にある生徒の助言を生かそうとしたことが資料8から分かる。また、生徒Bについては、友達から受けた助言をライティング作品に活用している姿が資料12と資料13から分かる。資料18の「生徒による英作文を交換して読む活動についての感想」にもあるように、ライティング作品を生徒同士で読む活動は「友達の文が参考になる」利点があり、自分の作品に対して「友達のアドバイスを得ることができる」場として活用できる。また、生徒同士で活動することで、「活動が楽しい」と前向きなコメントがあり、自分の使っている表現が「相手に伝わるか確認できる」場としても効果的であった。生徒A・Bが2学期に書いたライティング作品は1学期の作品よりも順序立てて具体的に作成したことが分かる（資料9、資料14）。このようなことから例文を効果的に見せたり、生徒が書いた作品を生徒同士読み合ったりする活動を取り入れれば、論理的な文章を書くことができると思う。

#### オ 振り返りシートについて

生徒Aは、「話の展開の仕方」について1学期に振り返りをし、そのことを2学期のライティング作品につなげようとした（資料5、資料6、資料8、資料9）。また、生徒Bは「内容を詳しく書くこと」について1学期よりも2学期の方がよくできたと振り返りをし、他の生徒も答えていた「成長が実感できる」ことにつながっていた（資料14、資料15、資料21）。そして、資料21にあるように、振り返りを行うことで「次回に生かせる」「成長を実感できる」「学びの再確認ができる」「新たな発見ができる」といった自己調整を図りながらライティング作品に生かすことができた。生徒同士で参照し合えるようにICTを活用するとともに、適宜振り返りシートに書いたことを再確認する時間を取れば、次の作品に生かすことができると言える。

#### カ 成果と課題

他者からの助言を得ることや振り返りシートを用いて自己調整を行うことでより論理的な文章を書くことにつながった。実践を通して、生徒が振り返りを行う上で大切だと考えた要素をまとめた（次ページ資料22）。特に④の「振り返りを参照する時間」の確保は授業者が意識しないとできない。振り返りは決してその場だけで完結するものではなく、振り返りは学びの前後を結び付ける欠かせない

要素であることを認識し、評価のための振り返りではなく、学びのための振り返りにしたい。

### 【資料22 振り返りの要素】

- ① これまでの学びとこれからの学びのつながりを意識できること
- ② 友人や先輩などの振り返りのモデルが十分に示されていること
- ③ 振り返りに対して評価と具体的なフィードバックが得られること
- ④ 定期的に以前の振り返りを参照する時間が確保されていること

## 3 吉良高校における実践と考察

吉良高校では、3年生普通科の「英語コミュニケーションⅢ」の授業でプロセスライティングの手法を取り入れた実践を行った（資料23）。生徒の英語学習への姿勢は

### 【資料23 吉良高校における実践の概要】

科 目：「英語コミュニケーションⅢ」  
 時 間：50分、週2時間  
 教科書：LANDMARK Fit English Communication Ⅲ（啓林館）  
 単 元：“Political Correctness”

前向きで、他者と協働して学ぼうとする姿勢が身に付いている。学習を進める中で、生徒が主体的な取組を通して課題を見つけ、それを解決しようとする態度を養いたいと考えている。

単元の前半では「読むこと」を中心とした授業を行った（5時間）。ポリティカルコレクトネスについて書かれた文章を読み、差別や偏見のない中立的な用語の利用と、行き過ぎた用語制限に潜む問題点を捉える活動を行った。その後、「書くこと」の活動として、「身の回りのポリティカルコレクトネス」という

### 【資料24 吉良高校の実践方法】

エッセイ「身の回りのポリティカルコレクトネス」

- ① マインドマップ
- ② Q and A
- ③ First Writing
- ④ Peer Editing
- ⑤ Second Writing

題でエッセイライティングを行った。ここ数年で利用されるようになった身近な中立的な用語や、その用語が利用されるようになった背景、また、その利用に対する考えをまとめた。この活動で、岩倉総合高校での実践と同様の、プロセスライティングの実践方法を取り入れた（資料24）。

エッセイライティングでは、「書くこと」について「主体的に学習に取り組む態度」の2つの側面を評価した（資料25）。まず、

### 【資料25 「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準】

粘り強い取組を行おうとする側面	2	100語以上
	1	80語以上100語未満
	0	80語未満
自らの学習を調整しようとする側面	3	First Writingからの具体的かつ適切な改善点が、3つ挙げられている。
	2	First Writingからの具体的かつ適切な改善点が、2つ挙げられている。
	1	First Writingからの具体的かつ適切な改善点が、1つ挙げられている。
	0	First Writingからの具体的かつ適切な改善点が、挙げられていない。

### 【資料26 ワークシートの改善箇所記入欄】

◇ Improvement	
※ 内容・構成について書くこと（例：～とアドバイスをもらい、～しました。）	
行目	
行目	
行目	

「粘り強い取組を行おうとしている側面」は Second Writing における記述量を基に評価した。また、「自らの学習を調整しようとする側面」は First Writing からの改善状況を基に評価した。改善状況については、生徒がワークシートに記入した改善内容を参考にして、効率的に評価ができるように工夫した（資料26）。

このようなプロセスライティングを通して生徒の取組状況に改善が見られた。特に、ピア・エディティング後の **Second Writing** で大幅に記述量が増加した。**First Writing** における平均記述語数は 75 語であったが、**Second Writing** では平均 102 語にまで増加した。

また、生徒の振り返りにおける記述からも、活動が粘り強い取組や学習の自己調整につながっていることが分かる。

#### 【資料 27 ワークシートの改善箇所記入欄】

☆	興味深い内容	?	内容の分からないところ
◎	自分も使ってみたい表現	+	もっと知りたいところ

ピア・エディティングの活動で、アドバイスをし合ったり、アンダーラインを生徒が引いたりした活動が効果的であったと考えられる（資料 27）。「授業中にもらったアドバイスを生かしてより内容を具体的に書くことを努力しました」「詳しく教えてほしい」と書かれたところを、分かりやすく伝えられるよう努力した」「説明が足りないと助言されたところは、より詳しく調べて書き加えました」のような振り返りが多く見られ、ペアから助言を得た箇所について、生徒たちが自分で考えながら加筆・修正できたようである。

他にも、読み手にとって、読みやすく、関心をもちやすい文章を意識して書くことができたことが分かる振り返りも多かった。

#### 【資料 28 高等学校学習指導要領 第 8 節 第 1 款 目標】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

「どのような表現を使えば自分

の伝えたいことが伝わるか考えながら文章を構成しました」「どれだけおもしろく、興味をもってもらえるかを考えた」「分からないと書かれた部分を、**Second Writing** のときにできるだけ分かりやすく表現した」のような記述から、学習指導要領の目標に示された態度が涵養されていることが分かる（資料 28）。

さらに、「他の人の言葉遣いや表現のよいところを積極的に取り入れた」「ペアワークで客観的に英作文を見ることができたので足りないところをスムーズに補えた」「アドバイスを送る際、相手が納得しやすいようなコメントを送るようにした」のように、他者のよいところを参考にしたり、他者の客観的な視点を参考にしたりしながら、作品をよりよく仕上げようとする姿も見られ、「協働的な学び」の効果を感じられる活動になった。

## 4 尾北高校における実践と考察

尾北高校では、1 年生普通科

#### 【資料 29 尾北高校における実践の概要】

「英語コミュニケーション I」でプロセスライティングの手法を取り入れた実践を行った（資料 29）。生徒の英語学習に対する意欲は高く、ペアワークや表現活動に積極的に取り組む生徒が多い。

科 目：「英語コミュニケーション I」  
時 間：50 分、週 3 時間  
教科書：*Heartening English Communication I*（桐原書店）  
単 元：“Creative Problem Solving”

教科書の内容理解に加え、その背景にある筆者の主張を理解したり、またそれを読んだ上での自分の意見を適切に述べたりする力を育成したいと考えている。しかし、与えられたテーマに対して自分の意見を論理的に書くのが難しいと感じている生徒もいるため、プロセスライティングの手法を取り入れた活動を通して、自分の意見を整理し、他の生徒の視点を取り入れながらより深く考えをまとめることができるようになることを目指した。

本単元では、前半（5時間）で「聞くこと」「読むこと」を中心とした活動を行った。日常生活で直面するごみのポイ捨て問題について、人間の心理や行動の特徴を利用して問題解決に結び付けようという試みに関する本文の概要や要点を捉えた。そして、後半（3時間）で「話すこと」「書くこと」を中心とした活動を行った。本文の内容や言語材料を活用して、身近な問題とその解決策について調べ、自分の考えを理由や具体例とともにまとめた。

ただし、プロセスライティングを実践する場合、指導と評価のために授業者の負担が大きくなることが予想される。プロセスライティングを持続可能な手法とするために、生徒の学びの質を確保しながら効率的な指導と評価を目指して実践を進めた。

#### （1）効率的な指導と評価のための手立て①

授業でライティングを扱うにあたって、分かりやすいルーブリックの作成を試みた。また、生徒がルーブリックを確認し合う時間を設けることで目標の共有を図った。しかし、生徒が書いた First Writing からの改善点には、単語や文法に関する内容が多く、「問題が起こる理由と問題解決に対する自分の意見、解決策（具体例）とその結果が筋道を立てて書いてある」「理解に支障がある（文と文の間に飛躍している箇所がある）」という基準は、生徒にとって難しかったのではないかと反省している（資料 30）一方で、文のつながりや論理性に気付いて自分の文章を改善した生徒もいるため、今後も反省を生かして継続的に指導していく必要を感じた（資料 31）。

#### 【資料 30 「思考・判断・表現」の評価基準】

「思考・判断・表現」	5	身近な問題について、 <u>問題が起こる理由と問題解決に対する自分の意見、解決策（具体例）とその結果が筋道を立てて書いてある。</u>	/ 5
	3	身近な問題について、問題が起こる理由と問題に対する自分の意見、解決策（具体例）とその結果を挙げているが、 <u>理解に支障がある（文と文の間に飛躍している箇所がある）。</u>	
	1	身近な問題について、問題が起こる理由と問題に対する自分の意見、解決策（具体例）とその結果の中でいずれかが不足している。	
	0	書いていない。	

#### 【資料 31 生徒が書いた First Writing からの改善点（一部）】

いらぬ言葉をなくして、120字以内におさめた。  
難しい単語をなくした。

以前は、「incorporate」を使っていたが、「harvest」に直し、分かりやすい表現にかえた。

On the other hand という表現より、That's why という表現にして、文のつながりを意識した。

みんなの話を聞いて「Actually」があったほうが説得力があると思ったから、例を挙げたのを削った結果を書き説得力をもたせた。



## (2) 効率的な指導と評価のための手立て②

次に、評価基準を明確にすることで、生徒が評価するポイントを把握しやすくするとともに、効率的に評価できるよう工夫した。「知識・技能」の評価基準に具体的な数値である「問題解決のパラグラフを書くために必要だと思われる表現を三つ以上使っている」と明示し、評価基準を生徒に周知した。さらに、英作文を書き終えた後、生徒はルーズリックに記載された「問題解決のパラグラフに必要な表現」に○印を付けるよう指示をした。このことにより、授業者が評価をする際に、○印が付いた箇所を中心に行うことが可能となり、評価にかかる時間を短縮することができた（資料 32）。同様に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準に「First Writing からの改善点を三つ挙げる」という具体的な数字を示した。生徒が具体的に改善点を記述するシートを作成することで、授業者はその改善点だけを見て効率的に評価できた。

【資料 32 生徒が書いた Second Writing】

At	the	station,	the	escalator	is	very	crowded	with	people.	10
Everyone	feels	comfortable	for	it.	That's	why,	people	don't	use the	20
stairs	because	it	is	troublesome.	According	to	a	textbook,		30
the	most	effective	way	to	change	people's	behavior	is	taking	40
a	psychological	approach.	I	think	appealing	to	people's	sense	of	50
eyes.	For	example,	this	stairs	display	a	question	along	with	60
two	choices.	"Which	station	do	you	go	to	after		70
work	?"	It	was	tested	in	Osaka.	People	walk	along	80
the	line	of	their	choice	station	name.	As	a	result,	90
an	average	of	1,300	people	used	the	stairs	in	one	100
day.	Therefore,	taking	a	psychological	approach	is	much	more	effective	110
than	forcing	people	to	change	their	behavior.				120

問題解決のパラグラフを書くために必要だと思われる表現に○をつけよう。 ( 116 ) words

## (3) 成果と課題

本単元では、プロセスライティングの手法を取り入れ、生徒が自分の意見を論理的に表現する力を育成することを目指した。生徒は、自分の考えを理由や具体例を交えてまとめる活動を通して、論理的な文章を作成することに取り組んだ。また、評価基準を明確に示すことで、授業者の負担を軽減し、生徒も目標を確認できるようになった。しかし、課題もいくつか浮き彫りになった。特に、生徒が与えられたテーマに対して論理的に意見を展開することが難しく、他者に助言をする際に、単語や文法の指摘にとどまってしまうことが多かった。プロセスライティングを取り入れることで、生徒は自分の考えを整理し、論理的な表現を意識するようになったが、さらに効果的な指導を継続的に行うことが必要だと感じた。

## 5 木曽川高校における実践と考察

本校3年生総合ビジネス科の

### 【資料33 木曽川高校における実践の概要】

「論理・表現Ⅱ」の授業で、プロセスライティングの手法を取り入れた授業実践を行った（資料33）。本校の生徒は素直で学習意欲が高く、さまざまな言語活動に積極的に取り組んでいる。その一方で、

科目：「論理・表現Ⅱ」  
時間：50分、週3時間  
教科書：Vision Quest English Logic and Expression II Hope  
(啓林館)  
単元：“What are some cultural differences?”

英語力に自信がもてず人前で自己表現することが苦手な生徒もいる。ICTを活用した探究学習が得意なことから、ICTを利用して調べた情報を整理し、英語で自分の意見を述べる活動を増やそうと考えた。また、ライティング活動に、今回実践したプロセスライティングのような協働学習を取り入れることで、読み手に配慮した英文を書こうとする態度を育てられると考えた。

プロセスライティングを実施する上で、授業者の生徒への支援について4点考察した。

1点目は、パフォーマンステストにおけるテーマ設定である。単元の目標は、「情報を加える表現や文の構造（関係代名詞・関係副詞）を理解し、それらの表現を用いて英文を書くことができる」とした。テーマ設定は、生徒の習熟度や背景知識を考慮して具体的な場面設定にする必要があると考えた。本校には留学生がいることから、留学生にお勧めの観光地を紹介しようという、身近で想像しやすいテーマとした。また、外国人にはあまり知られていない日本の素敵な観光地について調べ、その魅力を複数の理由とともに書いて伝えるという内容にした。その結果、ほとんどの生徒がFirst Writingから、戸惑うことなくライティング活動に臨むことができた。

2点目は、ループリックについてである。評価基準には、何をどのように書けば高得点が得られるかを、できるだけ具体的に設定した（資料34）。また、First Writing後にループリックの再確認をすることで、より単元の目標を意識した英文になるよう指導した。

### 【資料34 パフォーマンステストのループリック】

#### Rubric: Writing

	Categories	Points	Criteria
思考・判断・表現	Content	3	観光地の魅力と具体例を2つ以上効果的に分かりやすく述べており、説得力がある
		2	観光地の魅力と具体例を2つ以上述べている。
		1	観光地の魅力と具体例を1つ述べている。
	Expressions	2	関係詞を含む修飾表現を2回以上使用している。
		1	関係詞を含む修飾表現を1回使用している。
主体的に学習に取り組む態度	Attitude	3	First Writingからの改善が3つ適切に書かれている。
		2	First Writingからの改善が2つ適切に書かれている。
		1	First Writingからの改善が1つ適切に書かれている。
	Length	2	100語以上
		1	80語以上

3 点目はピア・エディティングにおいて、生徒が他者の英語を読んでコメントを書く時の生徒への働きかけである。日頃から生徒は他者の英作文へのアドバイスに苦労している。ピア・エディティングにおける生徒のコメントの一例を例示する（資料 35）。あらかじめ授業者がアドバイスの具体例を生徒に提示することで、生徒は自信をもって内容や構成についてコメントできるようになっていった。また、授業におけるさまざまな活動の中で、お互いにアドバイスをし合う場面を設定することで、その習慣が身に付いてくることが分かった。

【資料 35 ピア・エディティングにおける生徒のコメント】

1 <sup>st</sup> editor: [redacted]	2 <sup>nd</sup> editor: [redacted]
[Comment] 他にまだ足りない場所があるように 思いました。	[Comment] 犬山の景色が良くていい感じ 興味がわきました。
[Advice] 果敢明に犬山の魅力を 紹介するのを頑張ってください！！	[Advice] 犬山の歴史や文化をもっと詳しく 紹介したいと思いました！

4 点目は Second Writing において改善点をうまく書くことができない生徒への支援である。この場合も、授業者が生徒に改善点の例示を与えることを心がけた。First Writing でのアドバイスが的確であれば、改善点も明確になっていることが分かった。Second Writing での生徒の改善点の説明を例示する（資料 36）。

【資料 36 Second Writing での改善点の説明】

★First writing から改善した点を説明しよう！

【内容・構成について書くこと】（例：～とアドバイスをもらい、～しました）

6 行目	"Firstly" の前には For example を入っていましたか、なくても良いかもとアドバイスをもらい、なくしました。
8 行目	Finally の所でどんなお土産が買えるか具体的な例があると良いとアドバイスをもらい、具体的な例を入れました。
10 行目	文章が長くなりすぎて、何を伝えたいかわからないとアドバイスをもらい、伝えたいことだけを短くまとめて文章を作り直しました。

今回のプロセスライティングは本校において初めての試みであったが、生徒の取組や振り返りも非常によく、英語による表現活動の動機付けが高まったと言える。また、協働学習による適切な推敲を行うことで、書き手に配慮した英文を書くことができると実感した。年間を通してプロセスライティングを続けていくことで、生徒の表現力も確実に向上すると感じた。

## 参考文献

- ・『高等学校学習指導要領解説』、文部科学省、2018 年
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 外国語）』、国立教育政策研究所、2021 年



- ・ 柏木 崇『どうすればつながる？観点別評価と指導・学習改善』、View next. 高校版、2023 年
- ・ 堀哲夫『一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の可能性』、東洋館出版社、2019年
- ・ 増見敦「中学校英語言語活動における「振り返らせ方」の実践的研究.」『研究紀要：神戸大学附属中等 論集』、2023年
- ・ 文部科学省「平成29年度英語力調査結果（高校3年生）の概要」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470\\_03\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf)
- ・ Peregoy, S. F. & Boyle, O. F. 2016. *Reading, writing and learning in ESL (7th ed.)*. London: Pearson.